

ギターCD レター from yakateru(第 37 号)

大学時代にギター合奏団の指揮を経験し、今も、OB ギター合奏団に所属しています。そのメンバーの何人かは、マンドリンクラブにも所属していて、たいへん忙しそうに頑張っています。先日、そのマンドリンクラブの定期演奏会に行きました。とても素敵な演奏でした。が、.....

マンドリンクラブから入会の誘いを受けたが、××××.....

マンドリン対ギター の対決!!!?

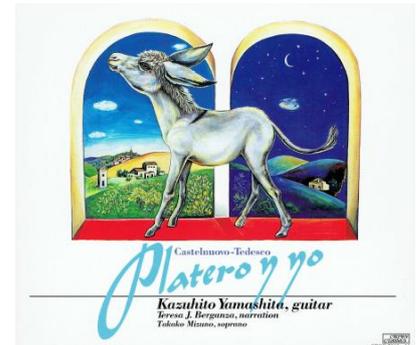
6月13日に天神アクロスで、益田さんのランチコンサートを聴いたとき、最後の演目が、ポッケリーニのギター五重奏であった。バイオリン2本、ビオラ、チェロとギターという編成。ポッケリーニは、いくつかの弦楽とギターのための曲を作っているが、今回は、その代表的なものだという。ほとんど馴染みがなかったので、不安を抱きつつも期待していたが、不安があたってしまった。どうしても、音量的に弦4本には負けるは仕方がないとしても、バイオリンなどの弦楽器と合わせると、どうしてもギターの音色が貧弱になってしまう。音量の方は仕方ないが、音色負けするのは結構辛い。ここまで、負けちゃうかあという印象だ。

ピアノと合わせても、ここまで、音質で負けることはない。しっかりと、ギターの音質の個性を維持して立ち向かう感じがある。やはり、同じ弦どうしの戦いになると、コテンパテンにやれてしまう運命にあるようだ。ギターのいい響きが消され、単調なひもの音に貶められる感がする。ビバルディのギター協奏曲など、バックはバイオリンやビオラ、チェロだが、団体と個人の戦いになると、ギターはしっかり音質をキープしている。そう、ギターは、1対1の勝負に弱いのである、弦楽器に対しては。

一方で、フルートやオカリナとの相性は無性にいい。包み込むような芳醇な音色のフルートやオカリナを、キラキラと繊細なギターが伴奏するのは、なかなかにはま

ったものとなる。試したことも、聴いたこともないが、尺八とギターも合うのではないかと思う。

さて、同じ弦どうしで、ぴったり合うのは、あと、マンドリンとギターという組み合わせだろう。今年の4月に太宰府マンドリンクラブの定期演奏会を聴きに行ったが、結構、ダイナミックで素晴らしい演奏だった。ちなみに、毎週2回の練習日を設けているようで、気合の入り方は中途半端ではない。しかし、しかしである。..演奏そのものは素晴らしいのだが、そのクラブに加わってギターを弾くかという、それは、ご勘弁をという気持ちである。その最大の理由は、クラブ名が表すように、「マンドリンクラブ」であり、「マンドリンとギタークラブ」ではないからだ。マンドリンのためのギターである。主人公ではないのだ。ん？先ほどのギターとオカリナの場合も、ギターが主人公ではないが、演奏するのは楽しいし、もともと音楽とは、オーケストラのように、それぞれの楽器がそれぞれの役割を持っているので、主人公になれるから嫌だというのではおかしいのではと言われそうだが、それだけではない。オケの役割分担と、マンドリンクラブにおけるギターの役割というのは、印象が違うのだ。はっきりいうと、クラブにおけるマンドリンとギターの関係は、大国と属国の関係に思ってしまうのだ。マンドリンが、右と言え、有無を言わず、へいへいと右を向かなければいけない、そんな関



係に見えるのだ。まあ、実際に、そんなことはなく、お互いにパートナーと思ってやっているのかもしれないが、私の偏見では、どっかの超大国と、どっかの属国？の関係のように見えるのだ。

なんでだろうとおもう。シュベルトの「水車小屋の娘（ギター伴奏版）」は歌とギターで、最初から最後まで、伴奏に徹するのだが、そんな気持ちにはならない。ギター伴奏で歌を引き立てることに喜びを感じながら弾くことができる。恐らくは、マンドリンもギターも似たものどうしなのに。いや違う、マンドリンはメロディーしか弾けない単純なやつであるのに比べ、ギターは小さなオーケストラと言われるように複雑な曲も弾ける賢いやつなのだ。そのギターが、なんで伴奏だけに甘んじなければいけないだ!!!ブンブン!!!

ということで、わたしが、マンドリンクラブのギターを弾く羽目になることはないと思う。(偏見満載でした。マンドリンクラブ関係者がいたら、ごめんなさい)。でも、太宰府マンドリンクラブの演奏は素敵でした。また、聴きたい!

さて、今日のお薦め CD は、しかめっ面で弾く山下和仁のテデスコ「プラテロと私」。歌ではなく、詩の朗読をギターが伴奏する私の大好きな曲である。山下氏以外の CD がないのでやむえない? (続)



詩を読んでいるテレサ・ベルガンサさんの柔らかい表情に比べ、しかめっ面の山下さん。演奏も、やはりどこか硬い！